

前進を続ける 2023 年台湾「反戦声明」

その過程と反響そして未来の展望と計画

傅大為（台湾陽明交通大学名誉教授）

2023 年 3 月 20 日、私たち（傅大為、盧倩儀、馮建三、郭力昕）4 人は台北の台大校友会で記者会見を開き、反戦声明を発表しました。（今年 7 月号に掲載）。この反戦声明は突然生まれたものではなく、1~2 年前から準備していたものです。2022 年世界中にたくさんのことが起きました。まず、ロシアがウクライナに対して侵略戦争を開始し、つづいてアメリカの下院議長ペロシ氏が、中国共産党の度重なる警告とアメリカ政府の支持がない中で強引に台湾を訪問し、台湾の蔡英文政府も盛大に迎え入れました。これにより、中国共産党は台湾を囲む形での軍事演習を行い、同時に警告として台湾海峡周辺にミサイルを発射しました。これまでお互いの暗黙の了解により存在していた台湾海峡の「中間線」もなくなりました。この一連のことにより、台湾とウクライナの危機を比較する議論が国内外で頻繁に行われました。

同年初夏、私は「ラディカル知識人」をテーマとした本の準備をしていたため、「現代の知識人：ノーム・チョムスキー」という座談会を企画していました。そのうち反戦声明の他の 3 人もこの座談会に積極的に参加してくれるようになりました。また、座談会でたくさんの方との熱い議論のおかげで、私たちはチョムスキーらによる国際情勢の分析にも習熟し、今日の東アジア情勢を見ることにも熟練してきました。それ以前に、盧倩儀はすでに『Surviving Democracy』（2020 年）を出版し、近年の新自由主義に対する批判の基礎を築いていました。ですから当然のことながら、私たちはアメリカ政府主導の世界情勢の枠組みや、一切のアメリカに追随する台湾政府の見解を受け入れません。また、私たち 4 人は台湾の社会や環境に対する批判活動も行ってきましたし、台湾の強権政府に反対する社会運動にも長く携わってきました。1991 年

第一次湾岸戦争の時に台湾における反戦論述を展開し、その後、2003年第二次イラク戦争の時に、世界的な反戦運動を台湾で積極的に推進しました。

世界の反戦運動に呼応して

上記のような背景と下積みもあり、2022年末にアメリカやヨーロッパで行われた左翼の反戦運動を見た私たちは行動を始めました。まずそれに呼応するような台湾の反戦声明を書くことを盧倩儀が提案し、私も記者会見を開こうじゃないかと提案しました。そして、馮建三と盧倩儀による草案に私と郭力昕が議論に加わる形で、2023年3月に反戦声明の初稿を完成させました。同時に私たちは声明の賛同者を探し始めましたが、その過程で草稿が流出し、すぐに民進党陣営（緑陣営）の少なくない人たちからの反発を招きました。反発の原因は概して、この声明が、アメリカが台湾を反中の駒として利用しようとしていると疑っていて、民進党政府が完全にアメリカに偏り、アメリカの庇護を得たいがため自らその駒になろうとしていると疑っていること、逆に声明が中国に反戦を求めていることでした。また、私たちはロシアのウクライナ侵略を許すことはできませんが、アメリカがウクライナを利用してロシアを挑発しレッドラインを越えたという歴史も遡って追及する必要があると考えています。それは、アメリカが近年「抗中保台（中国に対抗し台湾を守る）」を名目に台湾を利用し中国を挑発し続けていることと似ています。これが中国共産党による台湾への文武両面での脅しを増幅させる重大な原因になっているのです。

この反発により、緑陣営やそのネット支持者の多くが、私たちの記者会見前にFacebookや新聞、インターネット上で攻撃を始めていましたが、これが逆に社会の少なからぬ注目を集めました。また、私たちの共同声明も、学界の著名な学者をはじめ、若い学者や学界の管理職者など公的に支持を表明しにくい人たちを含めたたくさんの賛同を得ました。これらの賛同も私たちの反戦声明の勢いを強めました。最初の賛同者は学界からの37人でしたが、第二回～第四回の署名で2023年の夏までには80～90人に増え、その中には台湾で活動する約10人の国際学者も含まれていました（彼らも熱心に反戦声明を英語に翻訳してくださり、東アジア国際ジャーナル『Positions』に掲載しました）。しかし、賛同者の大半は台湾の学界からのものでした。

反戦活動ネットワークの結成

その後発展していく中で、私たちはもともとの4人の反戦活動グループから拡大し、「反戦活動ネットワーク」（以下「活動ネットワーク」）を結成しました。同時に、台湾における反戦について論考を新聞や雑誌に積極的に寄稿し、戦争に備えるのではなく戦争を避ける、中国を中傷するのではなく交流し意思疎通することの重要性を訴え、併せて、国際左翼世界の政治情勢や東アジアの地政学についての私たちの認識を強めようとしています。その一方で私たちは、東アジアの韓国、日本、沖縄、香港、さらには中国やアメリカの東西海岸など様々な地域と広く交流しながら支援や連帯が可能な仲間を求め、国際団体（たとえばアメリカの Veterans for Peace）のインタビューを受けたり、国際的な反戦平和フォーラム（たとえば韓国の International Strategy Center）に参加したりしています。そして今日、日本 AALA の集まりに参加し、日本の平和運動の友人たちと交流できることを光栄に思います。

私たちの反戦声明を支持してくれる友人の多くは学术界に属しているため、活動ネットワークが行ってきた活動も、思想や観念的な活動を重視してきました。たとえば、戦争と平和のワークショップや、兩岸文化ワークショップを開催したり、積極的に書籍を出版したりしています。馮建三の『ニュースコミュニケーション、兩岸関係とアメリカ』〔仮訳〕（2024年3月、聯経出版）、張小虹の『止戦』〔仮訳〕（2024年1月、時報出版）などがあります。私も『止戦』に書評を書いたり、中台兩岸の読者に読まれている雑誌『思想』に反戦の文章を発表し、討論に参加し、台湾・中国・アメリカの三地域で「中立台湾」の論述を繰り広げ、メディア改革の意識のある学術誌で発表しました。これらの努力は、台湾の人文学界での反戦論述を促進することを目指しています。

当然ながらもう一方で、社会運動に携わってきた活動ネットワーク内の仲間の活動にも加わりました。たとえば、イギリスとアメリカによって政治的に迫害されているウィキリークスの創設者ジュリアン・アサンジへの支援を数回表明したり、アメリカがイスラエルに武器を供給しつづけてパレスチナ人を虐殺していることに対して、アメリカ在台協会（AIT）に行き抗議しました。また、台湾の労働運動や青年学生運動（民進党政府がアメリカの要求に従って兵

力を増やすために、大学卒業生への兵役義務を一年に戻したことへの反対)も支援しています。さらに、台湾の公共テレビ(Public TV)で民進党陣営に反論したり、公共テレビの報道が不公平であることを批判したりもしています。

反戦電子書籍の出版

最近、活動ネットワークの成果の一つとして、私たちが過去に発表した反戦論述や多くの反戦翻訳を集め、6冊の「反戦電子書籍」を出版しました。

(<https://sites.google.com/view/antiwar2024/>)『反戦主張』、『合意形成』、『兩岸とアメリカ』、『ウクライナ・ロシア戦争』、『帝国主義』、『国際反戦翻訳選集』(タイトルはすべて仮訳)です。その中でも『国際反戦翻訳選集』が最も充実しています。台湾のメディアが一方向的にアメリカに偏り、アメリカの文化的覇権が長年にわたり台湾に深く影響し、左派や労働運動も台湾では振るわないため、台湾には国際的な左翼視点や、第二次世界大戦後アメリカ帝国主導の特に旧冷戦終結後の世界史に関する知識が非常に不足しています。訳文選には37篇の翻訳が収録されており、その後、友人の助けを借りてさらに約80篇の翻訳を追加しました。これら100篇以上の翻訳は、小規模ながらも国際的な左翼論述の翻訳事業といえます。すでに広く発信していますので、これが台湾の現在の東アジアや世界情勢の下での代替的な視点を発展させることに貢献できることを願っています。

最後に、2023年の春から今日まで、台湾における私たちの反戦活動は1年半以上続いてきました。多少の蓄積と連帯ができたものの、私たちの力は依然として非常に小さく、台湾の公共領域や文化のフィールドに対する影響力は依然として非常に限られています。活動期間がまだ短く、ネットワークに参加している友人たちの多くは本職で忙しいのですが、すでに退職した数人の仲間は逆に多くの活動に参加できています。昨年末の台湾の選挙では、民進党は大統領の得票率においても国会の議席においても数を減らし、弱体化した統治政権となったため、私たちの反戦および平和運動はむしろ台湾でより大きな政治的および論述的空間を得ることができました。民進党は最近、司法調査を通じて台湾の第三の政治勢力である民衆党(PTT)を攻撃し続けていますが、それが成功するとは限りません。私たちは今後どのように発展していくかはわかりませんが、台湾、中国、アメリカの三地域における将来の発展への関心と研究、国

際的な左翼論述に絶えず注目していくこと、そしてアメリカ帝国が中国を包囲し敵視する行動への分析、特に昨年 10 月以降のイスラエルとアメリカによるガザのパレスチナ人に対するジェノサイド行為への批判を続けることは、私たちが今後も努力しつづけ、絶えず前に進み、広く同盟と交流を求めていく方向性となるでしょう。（2024/9/3 記）

【訂正】本 AALA ニュース 161 号に掲載した「台湾反戦声明」（再録）の第 3 項目「米中戦争は要らない 台湾は自主を 大国とは有効で等距離の関係の維持を」の文中にある「台湾は自主独立の立場をとり」を原文に忠実に「台湾は自主の立場をとり」に訂正します。傅大為教授の説明によると、反戦声明は台湾が中立の立場をとることを求めており、独立を目指すものではありません。誤解を与える訳文となりましたことをお詫びして訂正いたします（訳者 鈴木啓史）。